第 313 号 2019 年　8 月 10 日発行
出雲市塩冶有原町 1-50
社会福祉法人ことぶき福祉会『ことぶき園』
　発行責任者：山根広美
Tel　：（0853）31 - 9900
Fax：（0853）31 - 9901

　ある日の夕食後の事です。小さな子どもたちがおつかいに行くテレビ番組を皆さんと見ていました。子どもが転ぶと「頑張れ頑張れ。」と声を上げ、又道に迷った子どもが泣き出すと「男の子が泣くもんじゃないよ」との言葉も飛び交っていました。ふと、A さんが「あんた子どもは何人おる？」と訊ねてこられました。未婚である事を伝えると「あらー、今度見合いでもするかね？親戚に丁度いいのがおるけん。」と今度は見合い話で盛り上がりました。A さんが「私は見合いだったよ。他に好きな人がいたけど、親の言うことは聞かんといけんかったから。」と言われると、皆さんもうんうんと頷いておられました。A さんが続いて「でもね、お父さんと結婚して良かった事が一つだけあるよ」と言われました。それは“可愛い子どもが生まれた事”でした。それを聞いていた他の方も「子どもは絶対に産みなさい。子は宝だから」「目に入れても痛くないわね」と賛同しておられました。

　認知症が進んでも、子どもの事を覚えておられる方は多いです。夕方になるとそわそわし始められ理由を伺うと、「そろそろ子どもが学校から帰ってくるから。」「夕飯の支度をしとかんと」「子どもを迎えに行かんといけん」などと言われます。又、夜に、ある方のお部屋を覗いた時には、目は閉じているのに手が天井に向かって動いており、何か夢でも見ているのかな？と思い近くまで行くと、目がパチリと開き「あんた帰ってきたかね。今うどん作ってるからちょっと待つだよ」と言われることもありました。あの手の動きはうどんを茹でる仕草だったんだな。と思った事もありました。こうして大事に大事に子どもを育ててこられたのだとひしひしと伝わってきます。いくつになっても母は母。子は子なのだと思います。故郷を離れて長いですが、育ててもらった恩を少しでも返さなければと、皆さんの“母親”の一面を見ていつも考えさせられます。

夕涼み会のご案内

今年も交流の場として夕涼み会を開催致します。
9 月 21 日（土）を予定しています。
詳細は追ってお伝え致します。お忙しいとは思いますが是非奮ってご参加ください。

「そんなん見るの止めてごせ。」高齢の女性の方と飼い犬の感動秘話のテレビを家族で見ている時の私の父の言葉です。「何言ってんの？いいんじゃない？別に」と軽い気持ちで言葉を返し、私はその場を離れようとしました。去り際に、「わしも直にこうなる。」と寂しさなのか、不安なのか、何とも言えない表情で父が小さく呟きました。私の父はまだ６０半ばで毎日元気に過ごし仕事もしています。いつも力強く、たまに冗談も言っている父が、そんな表情を見せ、これまで聞いたことのない言葉を発した事に私は驚きつつも何も言えず、そのままその場を後にしてしまいました。

また、先日入居されているＡさんが自らのノート見せてくださる機会がありました。それは、ページも日にちも飛び飛びで少ない文字で書かれている数年前の日記でした。どこかに遊びに出かけたことや家族の方に会えたことなど、楽しいことが書いてありましたが、あるページで私は手が止まりました。“死にたいなんてゼッタイ口にしてはだめ。他の人にイヤミになる…”と。（文章は少し省いてあります。）Ａさんは、認知症の進行はありますが、日頃笑っていることが多い方です。これを書いた時、何を想い何を考えていたのか、今となっては分からないことですが、私達が理解しきれていない想いや不安を記したのだと私は感じました。

人間誰しもが年を重ねます。年を重ね、老いていく事に対しての計り知れない不安や寂しさ。また、認知症という病気を抱え、それに対する不安。若く元気な私にはまだ理解しきれていない部分がたくさんあるのかもしれません。介護では相手を理解し、想いに共感することが大切とよく言われます。しかし、父の想いを理解しきれなかったこと、また、Ａさんのその時の感情をどれだけ理解し、想いに向き合えるのか。今一度、自分自身を見つめなおし考えるきっかけとなりました。

相手の想いを理解するということは簡単なことではないと思います。しかし、自分の想いを理解しようとしてくれている、想いを受け止めてくれていると感じられる存在がいるというだけで少し不安が和らぐのではないかと思います。少しでもそういった存在となれるよう日々励んでいきたいと思います。